

G7 科学技術大臣コミュニケの概要

前文

- ロシアによるウクライナに対する侵略を最も強い言葉で非難し続け、ウクライナを再建する上で、科学技術・イノベーションが果たす重要な役割を改めて強調。

1. 研究セキュリティ・インテグリティ、オープン・サイエンス及び科学コミュニケーション

1. 1 研究セキュリティ・インテグリティ

- 研究及びイノベーション（R&I）において潜在的に外国からの干渉のリスクがあることについて、より大きな認識が求められるべきことを強調。
- 「G7のグローバルな研究エコシステムにおけるセキュリティとインテグリティ（SIGRE）ワーキンググループ」の成果を高く評価。
- 2024年末までに、「バーチャルアカデミー」*へのアクセスをG7以外の同志国へも拡大。
- イタリアによる「グローバルな研究エコシステムのセキュリティとインテグリティに関するG7会議」の開催を歓迎。

* 研究インテグリティ・セキュリティのリソースを集めたオンラインプラットフォーム

1. 2 科学研究における自由と包括性及びオープン・サイエンス

- 公的資金による研究活動においてFAIR原則*を引き続き推進。
- 「オープン・サイエンスワーキンググループ」の取組及び成果への継続的な支持を確認。

* Findable=見つけられる、Accessible=アクセスできる、Interoperable=相互運用できる、Reusable=再利用できる

1. 3 科学コミュニケーション

- 「科学コミュニケーションに関するG7ワーキンググループ」の進展を歓迎。

2. 大規模な研究インフラ

- 「国際研究インフラに関する高級実務者会合(GSO)」の取組を支持。
- イタリアによる「大型研究インフラに関するG7会議」の開催を歓迎。

3. 新規及び新興技術に関する研究、原子核分裂・フュージョンエネルギー及び宇宙

3. 1 新規及び新興技術に関する研究

- AI、ハイパフォーマンスコンピューティング、量子技術、先端材料、バイオテクノロジーなどの新規及び新興技術の進歩の促進が必要。

- AIと量子の国内戦略は、G 7が技術力を向上させ、国際協力を強化するために不可欠。
- 新興技術に関して国際的な人材の移動及び循環をG 7間及び価値を共有する他のパートナーとの間で促進。
- 低・中所得国がAI及び先進的なコンピューティングの恩恵を利用できるようにすることの重要性を認識。

3. 2 原子核分裂・フュージョンエネルギー

- 原子力安全、核セキュリティ及び保障措置の最高水準にコミットし、これらの分野での更なる研究及び人材育成を推奨。
- フュージョンエネルギー研究や、研究開発及び高等教育のベストプラクティス並びに規制イニシアティブの共有におけるG 7での協力を促進。

3. 3 宇宙

- 去年の仙台G 7科学技術大臣コミュニケ及び本年のプーリアG 7首脳コミュニケでの「宇宙空間の安全かつ持続可能な利用の促進」、「軌道上デブリの課題に対処することの重要性」等へのコミットメントを改めて表明。
- 軌道上デブリの低減と改善に関する技術及び解決策を研究開発し、宇宙状況把握に関する世界的な調整を改善するための更なる努力を強く奨励。

4. アフリカとの研究・イノベーション協力

- 知識及び技能の開発、研究の機会及び成果、イノベーション並びに先進的な技術への不公平なアクセス及び構造的な利用能力の問題に取り組むことの重要性を認識。
- 今年は、アフリカ大陸に特に焦点を当て、アフリカ連合（AU）と国連教育科学文化機関（UNESCO）からのインプット及び洞察を歓迎。
- イタリアによる「アフリカ諸国との研究及び能力構築に関するG 7会議」の開催を歓迎。

5. 海洋と生物多様性

- 「海洋-気候-生物多様性の連関性の深い理解」に向けた取組が重要。
- 極域観測は、北極域研究船や南極域研究船などの国際的な観測プラットフォームを使った技術開発成果の活用、各種データの共有、人材育成・能力開発により強化できる。
- 「G 7海洋の未来(FSOI)ワーキンググループ」の成果を称賛。
- イタリアと欧州委員会による「地中海及び大西洋の健全性と沿岸の強靱性に関するG 7ハイレベル会合」を歓迎。